

まきびと カルデアの牧人 ~校長だより~ №.32

2学期終業式

~引き継いでほしい伝統と「メラビアンの法則」~

2025.12.22 校長

1学期の終業式では、菊池雄星選手や大谷翔平選手の花巻東高校時代の話から、「応援される人」になるためにはどうすべきかについて話しました。2学期の始業式では、「人の役に立ちたい」という承認欲求を皆が持っていて、これを満たすには自分の「できること」を増やし、人と関わる機会を増やすことが必要だと話しました。できることを増やすには、挑戦していくことが大切と伝えました。

2学期が終わりますが、春の自分と今の自分を比べて「できるようになったこと」を思い浮かべてください。もちろん日々勉強していますので、教科の知識は増え、わかるようになったこと、解けるようになった問題は増えましたね。知識以外の生活や行動、体力、人との関わり、心の状態はどうでしょうか。改めて1年を振り返り、自分の変化を確認してみましょう。「こうありたい自分」を思い浮かべ、それに向かって挑戦を続けてほしいと思います。

さて、私が感じる大東高校生の良さは素直で優しいところです。挨拶の良さも伝統として引き継いでいます。朝昇降口で立っていると気持ちの良い挨拶をしてくれます。私は皆さんと目を合わせながら挨拶を交わすようにしています。皆さんもきちんと目を合わせてくれますね。廊下で挨拶する時も目が合います。「目は口ほどに物を言う」とか「目は心の窓」などのことわざがあるほどです。ゴリラ研究で有名な山極寿一氏によると、サルとゴリラなどの霊長類とは、目を合わせる意味が異なります。サルの世界では、相手の顔を見つめるのは威嚇で、強いサルの特権なのです。一方で我々人間に近いゴリラなどの霊長類では、お互いの顔を見つめ合ってコミュニケーションをとっています。遊びに誘う時や争いが起きた時の仲直りなど、じっと見つめ合うことで意思を伝えている。人間もこの延長線上にいます。相手を大切にするとても大事な事だと思います。

一方で引き継いでほしくないこともあります。気になっていることはスカートの長さです。春は1年生のスカート丈は気になりませんでした。それが月日を重ねるうちに影響を受けてきました。1年生に限りませんが、気になる生徒と先生が個別に話すと丈を直すそうです。よくないと感じているようですね。

子どもの権利条約を知っていますか。これは「大人から守られる存在」として子供をとらえるのではなく、「一人の人間として権利を持っている存在」としてとらえるという考えに立つものです。子供にとって最も良いことは何かを考えよう。子供は自身の意見を自由に表すことができるようになります。これらが含まれています。もちろんスカート丈を含め学校のルール

についても意見を表明できます。合理的な理由があるなど、改善すべきことがあれば一緒に話しましょう。

「人は見た目が9割」という言葉を聞いたことがありますか。これはアメリカの心理学者アルバート・メラビアンの研究による「メラビアンの法則」と呼ばれるものからています。相手に感情を伝えるとき、視覚的影響が55%、聴覚的影響が38%、言葉の与える影響が7%であるそうです。つまり、話す内容は7%にすぎず、服装や顔の表情、匂いや声のトーンなどが大きく影響しているということです。

スカート丈など制服の着こなしから受ける影響は、この「見た目」にあたります。こう話すと、「人は見た目だけで判断できない。テレビに出る学者やデザイナーの中には奇抜な髪色やファッショニングをしている人もいるんじゃないかな。」と反論する。もちろんこれらは演出であって日常生活でも同じ格好であるとは思えないが、仮に同じ格好で過ごしているとしても、それらの人には見た目をひっくり返すだけの「できる」ものを持っていて、誤解されず、発言が正当に評価される。

では、皆さんは見た目からくる誤解をひっくり返すだけの「できる」を持っているのでしょうか。

先日の吹奏楽部の定期演奏会では本校吹奏楽部員だけではなく、中学生や卒業生など沢山の方々の協力でステージに登りきらないほどの人数での迫力ある演奏を聞かせていただきました。会場には生徒や保護者だけではなく、地域の幼い子供から高齢者の方までとても多くの人が集まってあふれるほどの盛況でした。夏の野球の大会における地域の方の大応援も感動しましたが、今回も皆さんを応援しようと思う人が沢山いることに改めて嬉しく思いました。

だから、見た目でも「応援される人」になってもらいたいのです。私も保護者として我が娘が短いスカートで平気で高校に通っていたら残念に思います。これは皆さんの保護者の方も声に出しては言われないかもしれません、同じだと思います。素直できちんと挨拶ができ、部活動にも一生懸命に取り組む皆さんが好きだから、気持ちよく応援したいのです。

少し前の話です。私が朝、車を運転し、高校の近くまで来たとき、すぐ下の橋の袂の横断歩道に本校の男子生徒が渡ろうと止まっていました。車を止めると、彼は丁寧に頭を下げ、小走りに横断し、渡りきったあとに再びこちらを向き直って頭を下げて行きました。なんて素敵なんだろう。これが自然とできる生徒がこの学校の中にいます。本当に皆さんを「応援したい」と心から思いました。「応援される人」になる種はいっぱい落ちています。見つけて実践してみてください。

皆さんそして先生方が元気で1年を終えることができることに感謝します。
良い年を迎えてください。